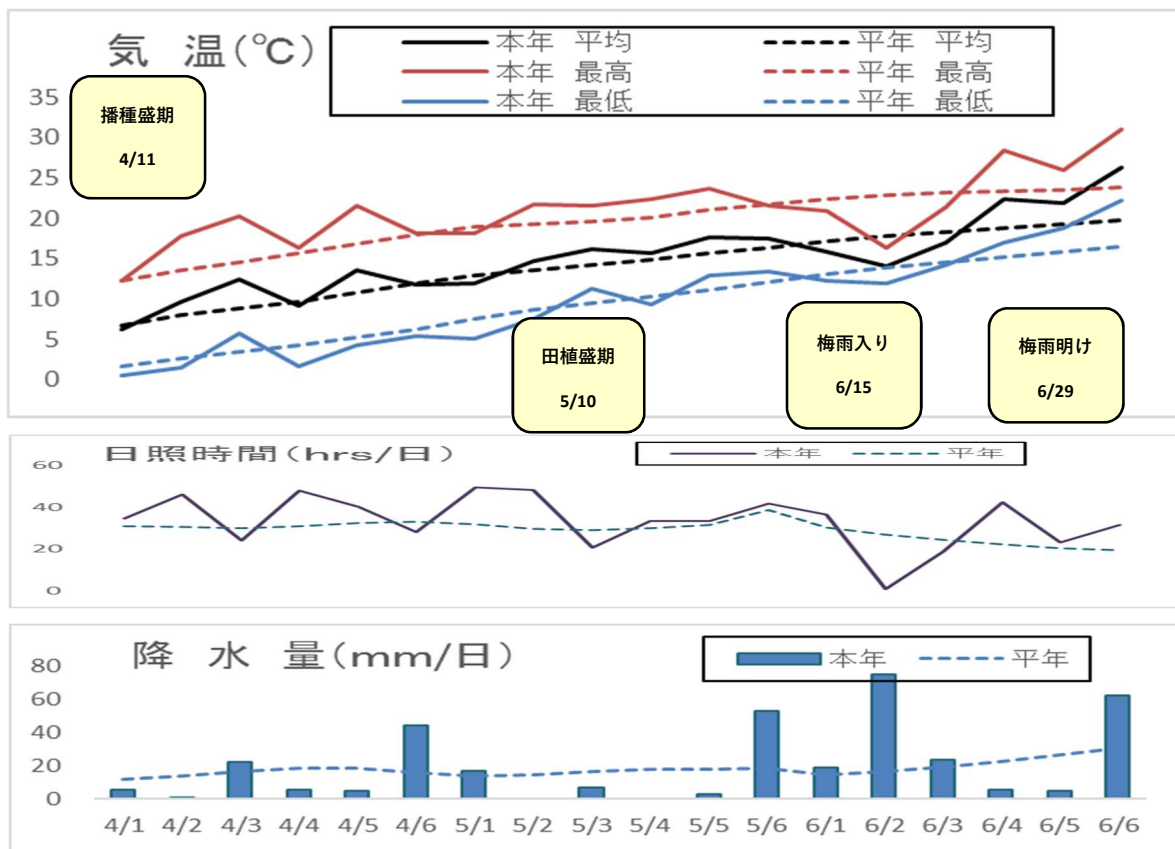


～生育は概ね回復 「つきあかり」では幼穂を確認～

～有効茎を確保した水田では 早めに追肥・病害虫防除等の準備を～

# 1 気象経過(古川 アメダス)



## ◆6/30 発表 東北地方の1か月予報(7/2～8/1 までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率60%、平年並みの確率30%、低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。

| 気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) |      |                       |          |
|-----------------------|------|-----------------------|----------|
| 気温                    | 東北地方 | 向こう1か月<br>07/02～08/01 | 10 30 60 |
|                       |      | 1週目<br>07/02～07/08    | 10 10 80 |
|                       |      | 2週目<br>07/09～07/15    | 10 30 60 |
|                       |      | 3～4週目<br>07/16～07/29  | 20 40 40 |
|                       |      | 向こう1か月<br>07/02～08/01 | 40 30 30 |
| 降水量                   | 東北地方 | 向こう1か月<br>07/02～08/01 | 40 30 30 |
| 日照時間                  | 東北地方 | 向こう1か月<br>07/02～08/01 | 20 40 40 |

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## 2 生育状況（7月1日）〔宮城県古川農業試験場・農業改良普及センター調査，ほか〕

（1）作況試験 5月10日植え ひとめぼれ（宮城県古川農業試験場）

- ・草丈は51.7cmで平年比112%，茎数は688本/m<sup>2</sup>で平年比110%である。
- ・葉数は9.5枚で平年より0.2枚多く，生育ステージは概ね平年並みである。
- ・葉色（GM値）は41.5で，概ね平年並みである。

| 移植日   | 草 丈         |            | 茎 数                        |            | 葉 色          |              | 葉 数        |            |
|-------|-------------|------------|----------------------------|------------|--------------|--------------|------------|------------|
|       | 本 年<br>(cm) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(GM値) | 平年差<br>(GM値) | 本 年<br>(枚) | 平年差<br>(枚) |
| 5月10日 | 51.7        | 112        | 688                        | 110        | 41.5         | ▲ 0.8        | 9.5        | 0.2        |

（2）【参考】県内品種別（県農業改良普及センター）

- ・草丈は51cm程度で，平年比105～118%である。
- ・茎数は451～610本/m<sup>2</sup>で平年比84～98%となっており，有効茎は概ね確保されているが，晩期栽培や6月上旬の低温を強く受けた水田等では一部に茎数不足が見られる。
- ・葉色（GM値）は42～46程度で，概ね平年並みである。

| 品種名   | 草 丈         |            | 茎 数                        |            | 葉 色          |              |
|-------|-------------|------------|----------------------------|------------|--------------|--------------|
|       | 本 年<br>(cm) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 平年比<br>(%) | 本 年<br>(GM値) | 平年差<br>(GM値) |
| ひとめぼれ | 51.5        | 105        | 511                        | 90         | 42.6         | ▲ 0.1        |
| ササニシキ | 51.3        | 111        | 610                        | 98         | 42.0         | 0.8          |
| つや姫   | 51.6        | 118        | 451                        | 84         | 46.0         | ▲ 0.1        |

（3）【参考】現地検討会にて

- ・7月5日に石巻農協管内で開催された現地検討会において，「つきあかり」の幼穂1～2mmが確認された。「つきあかり」は，幼穂形成始期に入ったと推察される。

## 3 今後の管理

（1）水管理

- ・これから幼穂形成期（古川農業試験場「ひとめぼれ」の平年値は7月8日）を迎える。中干し終了後，急に湛水状態にすると土壌の還元が急激に進み，酸素不足になって根を痛めるので，中干し終了直後は走り水程度とする。

（2）肥培管理

- ・水田で主茎を数本抜き，幼穂の発育状況を確認して肥培管理に努める。  
（幼穂形成期：幼穂長1～2mm，減数分裂期：幼穂長3～12cm）
- ・近年は，高温傾向が多いため施肥窒素の消失が早く，葉色の低下した水田がよく見受けられるので，稲の葉色や幼穂の発育状況を確認しながら，適期に追肥作業を実施する。
- 移植の早かったほ場等では既に最高分げつ期を過ぎており，低温等の影響で目標茎数が得られなかった場合は，穂数不足が懸念される。その際は，茎数や葉色等の推移を確認し，幼穂形成期の追肥が有効な品種では，幼穂形成期の追肥を行い，穂数の確保を図る。

◆品種ごとの追肥窒素量 (kg/10a) は、以下を目安にする。

| 品種名   | ひとめぼれ | ササニシキ | だて正夢 | 金のいぶき | つや姫・まなむすめ |
|-------|-------|-------|------|-------|-----------|
| 幼穂形成期 | 1     | －     | －    | 1     | 2         |
| 減数分裂期 | 1     | 1～1.5 | 2    | 1     | －         |

- ◎「だて正夢」の場合、有効茎数が少なく穂数不足が予想される場合には、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kgずつ分けて施用し、適正穂数の確保を図る。
- ◎「金のいぶき」の葉色は、「ひとめぼれ」に比べ淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下する。このため、減数分裂期の葉色値 (SPAD502 値) が30以下にならないよう、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg程度施用し、減数分裂期の葉色値を30～32程度に維持する。

### (3) 病虫害防除 (宮城県病虫害防除所 発生予報第4号より)

#### ① いもち病

- 防除所の予報では、葉いもちの発生時期は「平年並みの7月第2半旬」で、発生量は「やや少」と予想されている。
- 防除所では、葉いもちの感染好適条件の出現状況について、下記のようにHPに掲載している【いもち病は平均気温が20～25℃で曇りや雨の日が多いと発生しやすくなる。●が感染好適条件】。今後、好適条件が出現しやすくなるので、水田をこまめに見回る。
- 防除所による6月中旬の調査結果によれば、**本田での発病は確認されなかったが、残苗での発病が確認されている。残苗の残っている水田が散見されるので、早急に処分する。**

| 日付   | 駒ノ湯 | 気仙沼 | 川渡 | 築館 | 米山 | 志津川 | 古川 | 大衡 | 鹿島台 | 石巻 | 女川 | 新川 | 塩釜 | 仙台 | 白石 | 蔵王 | 亘理 | 丸森 |
|------|-----|-----|----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 6/24 | ○   | －   | ●  | ●  | －  | －   | －  | ●  | －   | －  | －  | △  | －  | ●  | －  | ●  | －  | －  |
| 6/25 | －   | －   | －  | －  | －  | －   | －  | －  | －   | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  |
| 6/26 | －   | －   | －  | －  | －  | －   | －  | －  | －   | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  |
| 6/27 | －   | －   | －  | －  | －  | －   | －  | －  | －   | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  |
| 6/28 | ?   | ●   | －  | －  | －  | －   | －  | －  | －   | －  | －  | －  | －  | ●  | －  | －  | －  | －  |
| 6/29 | －   | －   | －  | －  | －  | －   | －  | －  | －   | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  |
| 6/30 | ●   | －   | －  | －  | －  | －   | －  | －  | －   | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －  |

#### ② 斑点米カメムシ対策

- 防除所の予報では、斑点米カメムシ類の発生時期 (第1世代成虫発生盛期) は「平年並みの7月第4半旬」で、発生量は「やや少」と予想されている。ただし、6月に牧草地及び雑草地で実施した「すくい取り調査」では、広域でカスミカメムシ類の成虫及び幼虫が確認された。
- 畦畔や雑草地・牧草地等のイネ科雑草は、7月中旬を目安に草刈りを実施する。
- 草刈りを出穂期前後に行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになるため、出穂の10日前までに終える。